

ART WEEK TOKYO
2021.11.4 Thu - 11.7 Sun

2022年のローンチに先駆け、アートウィーク東京 11月に始動！

2021年11月4日（木）から7日（日）の4日間、東京という都市の文脈に息づく現代アートを世界に向けて発信するためのプロジェクト「アートウィーク東京」を開催いたします。

国際的に活躍するギャラリーから新世代のアーティスト・ラン・スペースまで、国立美術館からプライベートミュージアムまで。現代アートを牽引してきた都内50のギャラリーと美術館が「現代アート」を軸に集い協働する、かつてない規模のアートイベントが幕を開けます。

4つのルートで会場をつなぎ、アートに乗せて走る「アートバス」に乗って、50のアートスポットへ手軽にアクセス。東京のアートとカルチャーを体感しながら、現代アートの見方や最新のアート・トピックを「オンライントーク」でチェック！

アートのビギナーからプロフェッショナルまで、すべての人が東京のアートとカルチャーを思い思いに満喫できるよう用意されたクリエイティブなアートウィークを、お楽しみください。

アートウィーク東京は、Art Basel（アートバーゼル）とCADAN（一般社団法人日本現代美術商協会）の協力のもと、一般社団法人コンテンポラリーアートプラットフォームの主催により開催します。

アートウィーク東京

会期：2021年11月4日（木）ー11月7日（日）

時間：10:00-18:00 ＊東京オペラシティアートギャラリー、ワタリウム美術館は11時開館。

会場：美術館6館・ギャラリー44軒

artweektokyo.com @artweektokyo

Museums & Galleries

参加美術館／ギャラリー



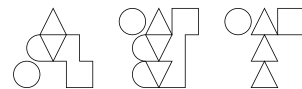
美術館

- アーティゾン美術館 | <https://www.artizon.museum/>
東京オペラシティ アートギャラリー | <https://www.operacity.jp/ag/>
東京国立近代美術館 | <https://www.momat.go.jp/am/>
東京都写真美術館 | <https://topmuseum.jp/>
森美術館 | <https://www.mori.art.museum/jp/>
ワタリウム美術館 | <http://www.watarium.co.jp/>

ギャラリー

- Gallery 38 | www.gallery-38.com
4649 | www.4-6-4-9.jp
青山目黒 | <http://aoyamameguro.com>
ANOMALY | www.anomalytokyo.com
WAITINGROOM | <https://waitingroom.jp/>
XYZ collective | <http://xyzcollective.org/>
MEM | <https://mem-inc.jp/>
オオタファインアーツ | <https://www.otafinearts.com/ja/>
カイカイキキギャラリー | <http://gallery-kaikaikiki.com/>
KANA KAWANISHI GALLERY | www.kanakawanishi.com
カヨコユウキ | <http://kayokoyuki.com/index.php>
児玉画廊 | <https://kodamagallery.com>
KOTARO NUKAGA | <https://www.kotaronukaga.com>
ギャラリー小柳 | <https://www.gallerykoyanagi.com/>
小山登美夫ギャラリー | <http://tomiokoyamagallery.com/>
ギャラリーサイド2 | <https://www.galleryside2.net/>
THE CLUB | <http://theclub.tokyo/>
シュウゴアーツ | <http://shugoarts.com/>
スカイザバスハウス | <https://www.scaithebathhouse.com/>
タカ・イシイギャラリー | <https://www.takaishiigallery.com/>
タグチファインアート | www.taguchifineart.com/
Take Ninagawa | <https://www.takeninagawa.com/>
タリオンギャラリー | <https://taliongallery.com/>
TARO NASU | <https://www.taronasugallery.com/>
東京画廊 +BTAP | <https://www.tokyo-gallery.com/>
ナンヅカ アンダーグラウンド | <https://nanzuka.com/>
日動コンテンポラリーアート | <https://www.nca-g.com/>
ハギワラプロジェクト | <https://www.hagiwaraprojects.com/>
PGI | <https://www.pgi.ac/>
ファーガス・マカフリー 東京 | <https://fergusmccaffrey.com/>
Fig. | <http://ffiigg.org/>
Blum & Poe | <https://www.blumandpoe.com>
ペロタン東京 | www.perrotin.com
POETIC SCAPE | <https://www.poetic-scape.com/>
Maki Fine Arts | makifinearts.com
MAHO KUBOTA GALLERY | <https://www.mahokubota.com/ja/>
MISAKO & ROSEN | www.misakoandrosen.jp
ミサシンギャラリー | <http://www.misashin.com/>
ミヅマアートギャラリー | <https://mizuma-art.co.jp/>
無人島プロダクション | <http://www.mujiin-to.com/>
ユカ・ツルノ・ギャラリー | <https://yukatsuruno.com/>
Yutaka Kikutake Gallery | <http://www.ykkgallery.com/>
ユミコチパアソシエイツ | <http://ycassociates.co.jp/>
rin art association @ CADAN 有楽町 | <https://cadan.org/>
<http://rinartassociation.com/>





4 ルートを巡回する「アートバス」

車内でのみ体験できる特別企画 《都市を巡る声》

会期中、アートウィーク東京の会場となるすべての美術館とギャラリーを結ぶ「アートバス」。

4つのルートを巡回し、ルートごとに異なる4つの作品が体験できます。バスは約15分間隔で巡回。

企画は、今年のソウル・メディアシティ・ビエンナーレでアーティスティック・ディレクターを務める**ユン・マ氏**。

現在の即興演奏や電子テクノロジーを用いた表現に大きな影響を与えた**グループ・音楽**。フルクサスのメンバーとしても知られ、ことばと音を用いたパフォーマンス、作曲などを手がける**塩見允枝子**。都市や社会に介入する演劇のあり方を模索する**高山明**。変化してゆく「事象」にフォーカスしたインスタレーションを手がける**毛利悠子**。4組のアーティストが創造する「声」と共に東京を巡ります。



企画

ユン・マ

第11回ソウル・メディアシティ・ビエンナーレ（2021年9月ソウル市立美術館で開催）のアーティスティック・ディレクターを務める。パリのボンピドゥー・センターの現代アートおよびプロスペクティブ・クリエーション部門のキュレーター、香港のM+の映像部門のアソシエイト・キュレーターを歴任。2009年と2013年にはヴェネツィア・ビエンナーレの香港パビリオン共同キュレーターを務めた。

アーティスト



グループ・音楽

集団による即興演奏の場として、1960年8月頃に小杉武久、水野修孝、塩見允枝子、刀根康尚、戸島美喜夫、柘植元一により結成。第1回公演「即興演奏と音響オブジェのコンサート」を1961年9月に草月会館ホールで開催。楽器のほか、電化製品や日用品を用いて多様な音響を生み出し、音楽の意味を追求した。集団としての活動は短期間だったが、即興演奏や電子テクノロジーを用いた表現において大きな影響を残した。



塩見 允枝子 (しおみ みえこ)

Photo: Takuma Uematsu

1938年岡山市生まれ。1961年東京芸術大学音楽学部楽理科卒業。在学中より級友達と「グループ・音楽」を結成。1964年ニューヨークへ渡り、フルクサスに参加。1965年航空郵便によって世界各国の人々と同じイベントを行なう「スペシャル・ポエム」のシリーズを開始、帰国後も10年間に9つのイベントを行なう。一方、イベントをパフォーマンスとしても拡大し、インターメディアへと至る。1970年大阪へ移住し、ことばと音を中心にした室内楽曲を多数作曲。1990年ヴェネチアでのフルクサス・フェスティバルへ参加して以来、欧米でのフルクサスの催物に頻繁に関わりと同時に国内でもフルクサスの催物を自主企画。トランスメディアという独自の手法により、視覚作品、パフォーマンス、作曲など多ジャンルにわたる活動を現在も続けている。



Photo: Yuji Oku

高山 明 (たかやま あきら)

1969年生まれ。2002年に演劇ユニットPort Bを結成。実際の都市を使ったインスタレーションやプロジェクトなど、都市や社会に介入する活動を世界各地で展開し、近年では異分野とのコラボレーションに活動の領域を拡げ、演劇的発想・思考によって様々なジャンルでの可能性の開拓に取り組んでいる。主な作品に「ワーグナー・プロジェクト」（横浜、フランクフルト他）、「マクドナルド放送大学」（フランクフルト、東京、香港他）など。

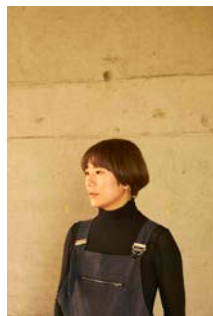


Photo: Kenshu Shintsubo

毛利 悠子 (もうり ゆうこ)

1980年神奈川県生まれ、東京在住。コンポジション（構築）へのアプローチではなく、環境などの諸条件によって変化してゆく「事象」にフォーカスするインスタレーションやスカルプチャーを制作。主な個展に、「SP」Ginza Sony Park (2020)「Voluta」カムデン・アーツ・センター（ロンドン、2018）、「ただし抵抗はあるものとする」十和田市現代美術館（2018）、ほか、数々の国際展およびグループ展に参加。2015年ACCにて渡米のほか、日産アートアワードグランプリ（2015）、第67回芸術選奨文部科学大臣新人賞（2017）など受賞多数。2018年には文化庁文化交流使として中国に滞在。



オルタナティブなアート教育を担ってきた非営利のグループ、アーツイニシアティヴトウキョウ [AIT] がお届けする、日本の現代アートの美術史的文脈やその楽しみ方に焦点をあてたオンラインのトークシリーズを開催します。

一部を日英バイリンガルで提供、日本のアートに関する学びのコンテンツを国内外に向けて10月より配信します。

スピーカー



片岡 真実 (かたおか まみ)

森美術館 館長。ニッセイ基礎研究所都市開発部研究員、東京オペラシティアートギャラリー・チーフキュレーターを経て、2003年より森美術館。2020年より現職。2007～2009年はハイワード・ギャラリー（ロンドン）にて、インターナショナル・キュレーターを兼務。第9回光州ビエンナーレ（2012年）共同芸術監督、第21回シドニー・ビエンナーレ（2018年）芸術監督、国際芸術祭「あいち2022」芸術監督。2014年からCIMAM（国際美術館会議）理事、2020年より会長を務める。
photo: Akinori Ito



アンドリュー・マークル

東京を拠点とするアートライター、エディター、翻訳者。『ArtAsiaPacific』副編集長を経て、現在は『ART iT インターナショナル版』副編集長。『Artforum』『frieze』などに寄稿。主な翻訳に、フーフアン（中英）や田中功起の執筆（和英）。主な出版物に、菅木志雄論集第1巻（Skira社、2021年予定）。東京藝術大学大学院国際芸術創造研究科非常勤講師。
photo: Yukiko Koshima



ロジャー・マクドナルド

NPO法人AITプログラムディレクター。イギリスで教育を受け、学士では国際政治学、修士では神秘宗教学。博士号では書籍『アウトサイダー・アート』の執筆者ロジャー・カーディナル氏に師事し、美術史を学ぶ。1998年より、インディペンデント・キュレーターとして活動。2003年より美術大学にて非常勤講師として教鞭をとる。佐久市に移住後、2013年に実験的なハウスミュージアム「フェンバーガーハウス」をオープン、館長も務める。



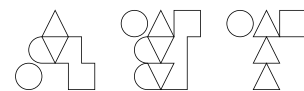
塩見允枝子氏によるスペシャル・トーク開催！

フルクサスを代表するアーティスト 塩見允枝子氏によるスペシャル・トークを予定。1960年代、東京を舞台に行われた伝説のアートイベント「バス観光ハプニング」について語り、アートが都市空間に介入した当時の記憶を辿ります。

Photo: Takuma Uematsu

企画：アーツイニシアティヴトウキョウ [AIT]

2001年、現代アートに興味がある誰もが学び、対話し、思考するプラットフォームづくりを目指して、6名のキュレーターとアート・マネージャーが立ち上げた非営利団体。アーティストやキュレーター、美術館やギャラリーのほか、企業、財団、行政などと連携しながら、教育、レジデンス、コンサルタントを通じて、現代アートの持つ魅力やその楽しみ方を伝える。



Art Basel (アートバーゼル) のサポートを受け、始動

「アートウィーク東京」は、バーゼル、香港、マイアミビーチで世界最大級の近現代アートフェアを開催している Art Basel のサポートを受けて始動します。Art Basel の関与は、「アートウィーク東京」がグローバルな視野を持ったイベントであること、また Art Basel が長年関わってきたアジア太平洋のローカルなアートシーンへの継続的なサポートの表れでもあります。

Art Basel は、世界に通用する大規模なアートイベントを運営するための専門知識を提供し、またこの地域の内外に持つネットワークを活かして、日本の新しい世代のギャラリーやアートスペースを国際的なオーディエンスに紹介するプラットフォーム「アートウィーク東京」のミッションを共に推進します。

Art Basel より、「アートウィーク東京」ソフトローンチに寄せて —— アデルリン・ウーイ (Art Basel ディレクター・アジア)

2021 年の「アートウィーク東京」のソフトローンチをサポートすることができて嬉しく思います。東京はアートとカルチャーにとって重要な場所であり、世界のなかでも類を見ない魅力的な都市のひとつです。アジアで最も長い歴史を誇り、また評価の高いギャラリーや美術館が集まる東京のダイナミックな現代アートシーンに世界の注目が集まり、満を持して開催されるこの刺激的な取り組みに関わることができて光栄に思います。Art Basel は長年に渡り、成長を続けるアジアのアートシーンの発展、インフラの整備に力を注いでおり、このプロジェクトは Art Basel のコラボレーションの理念を反映するものです。



© Art Basel

主催者より

「アートウィーク東京」は、日本のコンテンポラリーアートの創造性と多様性、またそのコミュニティを国内外に紹介することを目的に設立されました。インフラを整え、東京のアートシーン形成に携わる主要なアートスポットへのアクセスを簡易化することで、全ての方をアートのプロフェッショナルと繋ぎ、日本の現代アートのコミュニティの創造を促すことができると考えています。また、グローバル・ブランドである Art Basel の協力によって、国際社会と日本の関係をより強固なものにしたいと考えています。

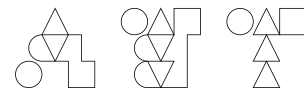
蜷川 敦子 (にながわ あつこ)

Take Ninagawa 代表、
アートウィーク東京 共同設立者・ディレクター

2008 年にギャラリー、タケニナガワを東麻布に設立。以降、国際的な文脈の中で日本のアーティストを紹介することに努める。Art Basel 香港のセレクションコミッティー。グローバル・サウス問題を扱うアートのためのプラットフォーム SOUTH SOUTH にコラボレーターとして関わる。2021 年一般社団法人コンテンポラリーアートプラットフォームを共同設立、アートウィーク東京を立ち上げる。

photo: Katsuhiko Saiki





■アートウィーク東京 (AWT) パス

アートウィーク東京会期中、会場となるすべての美術館とギャラリーを巡るアートバスに乗り降り自由なパス。
また美術館ではお得な割引や特典を受けることができます。中学生以下は無料。

- | | |
|----------------|---------------------------------|
| ① AWT パス | 1000 円 (1 日有効) |
| ② AWT ペアパス | 1800 円 (1 日有効、2 名分) |
| ③ AWT エクストラパス | 2800 円 (1 日有効、数量限定オリジナルトートバッグ付) |
| ④ AWT 4-Day パス | 2000 円 (4 日有効) |

■パス特典

- ・有効期間内は、どのルートどのバスにも乗り降り自由です。
- ・パスの提示により、美術館で割引や特典を受けられます。
(割引や特典の詳細は公式ウェブサイトパス購入ページでご確認ください。)

■パス購入

アートウィーク東京公式ウェブサイトよりご購入いただけます。

URL : <https://www.artweektokyo.com>

【アートウィーク東京 開催概要】

会期：2021 年 11 月 4 日 (木) — 11 月 7 日 (日)

時間：10:00–18:00 *東京オペラシティアートギャラリー、ワタリウム美術館は 11 時開館。

会場：美術館 6 館・ギャラリー 44 軒

AWT インフォメーションセンター：東京都港区南青山 5-4-30

主催：一般社団法人 コンテンポラリーアートプラットフォーム (JCAP)

協力：Art Basel (アートバーゼル)、一般社団法人 日本現代美術商協会 (CADAN)

【Contact】

ご質問、取材や掲載等に関するお問い合わせは、下記プレス担当までお問い合わせください。

AWT プレス担当：竹形 尚子 / デイリープレス

t. 03-6416-3201 090-1531-6268

naotakegata@dailypress.org